

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
第2回意見交換会(成果共有会)
発表資料

人も自然も観光も循環する
島民が住み続けたい西表島

活動団体名：西表島農業青年クラブ
活動地域：沖縄県西表島

今年度取り組んだ事業

生ゴミBOXワークショップ開催



仕組みを知り、手作りするから愛着が沸く生ゴミBOXになる



BOXの地域住民へ配布



地域の方々も循環に興味津々

1次処理



生ごみを保管するための「床材」を仕込む作業。材料全て西表の資源



集めた生ゴミを本格的に高温発酵処理スタート！

2次処理

今年度取り組んだ事業

堆肥舎整備と牛糞堆肥づくり



自治体のサポートで堆肥舎建築。
畜産農家と連携し、処理に困っている牛糞を受入れ
発酵処理を行い、堆肥化する。

土壌改良として圃場で活用



堆肥を活用することで地力のアップにつながり作物
の品質向上が期待できる。
化学肥料低減によるコストダウンも図れる。

経産牛の肥育・地産地消



牧草のみを与えて、環境負荷の
少ない肥育を実践。

島内のスーパー、学校給食との連携



生産物が島内で回る地産地消を推進

加工してふるさと納税返礼品として出品中



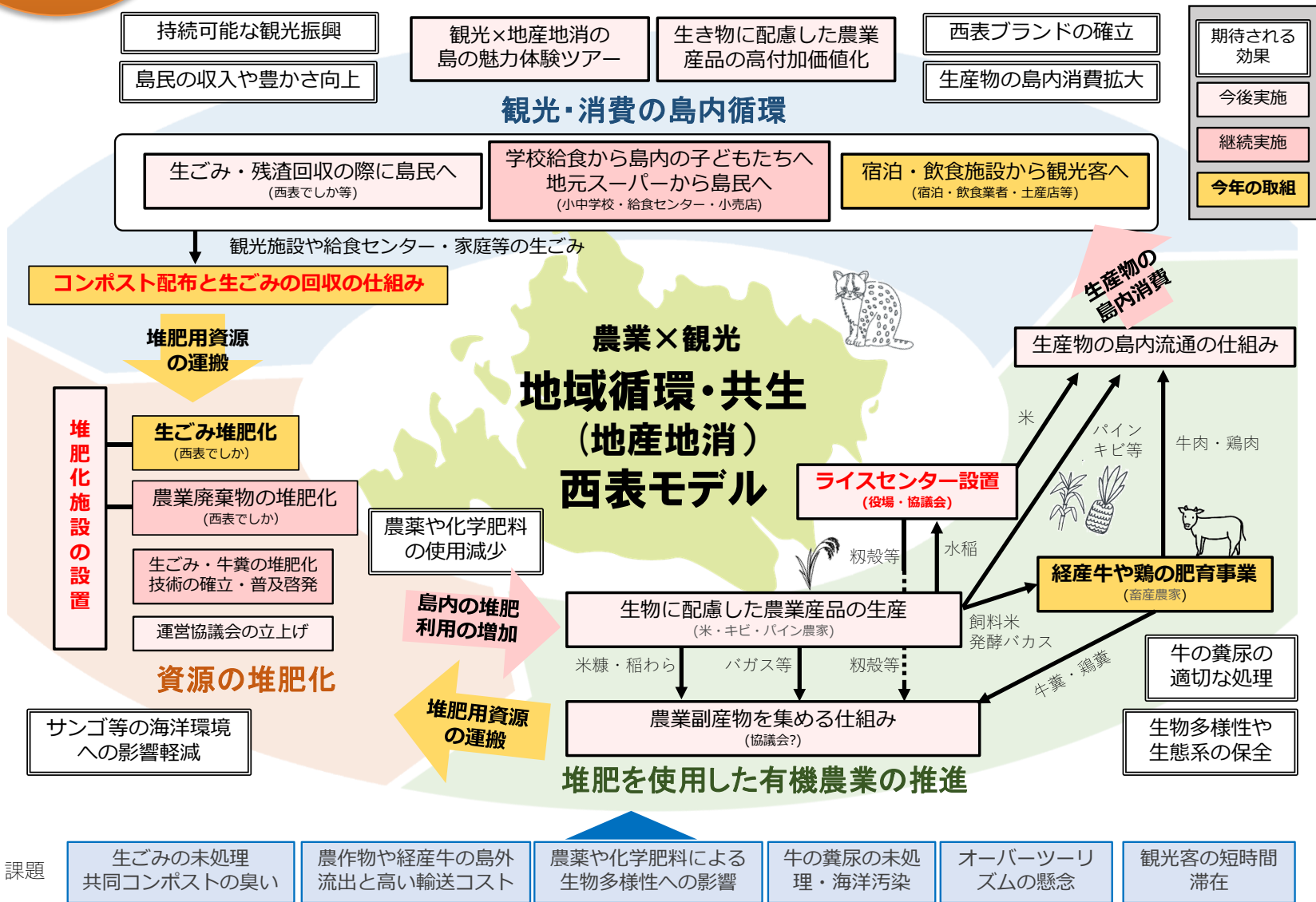
生産物が島内で回る
地産地消を推進

今年度取り組んだ事業

マンダラ図の
アップデート

人も自然も観光も循環する島民が住み続けたい西表島

【参考】竹富町の総合計画にある西表島の将来像：世界に誇る大自然と伝統文化が息吹く島



地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

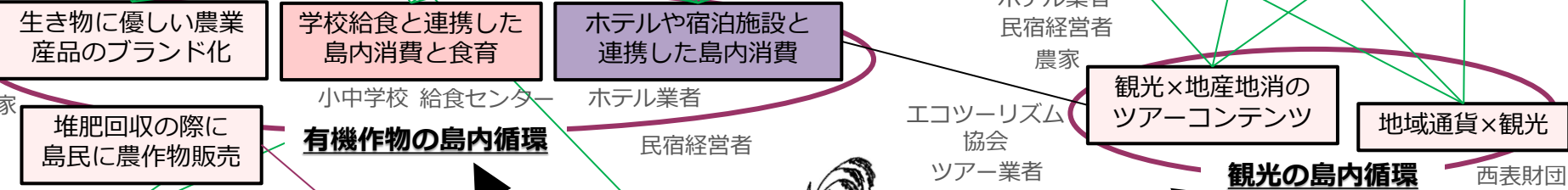
以前のマンダラ図

影響の軽減
保全

経済
・ 循環型の有機栽培の島
・ 人、自然、観光が持続可能

社会
・ 島民が住み続けたい島
・ 島の魅力を島で感じる

- 環境保全の基金が集まる
- 使用する農薬が減る
- 島内産品が島内で消費される
- 資源が島外へ流出しない
- 島民の収入向上
- 島外消費者の購入増加
- 観光客が長く滞在する



経産牛の島内肥育事業

経産牛の島外流出

畜産農家

堆肥を使った農業

キビ農家
パイン農家
米農家



畜産農家

生ごみの堆肥化

農業廃棄物の堆肥化

生ごみコンポストの家庭配布

島内での精米ライスセンターの設置

堆肥化施設の設置

サトウキビ (バガス/ハガラ)



コンポスト配布実験

堆肥を使用した有機農業

堆肥化のための資源調達

牛糞
稲わら・もみ殻

生ごみの未処理
共同コンポストの臭い

高い輸送コスト
→農家の負担や環境負荷

農作物の島外流出と
島外作物への依存

農薬や化学肥料による
生物多様性への影響

牛の糞尿の未処理

観光客 お土産を販売する島民
製糖工場

観光客の短時間滞在

オーバーツーリズムの懸念

課題
今年の実施
今後実施
将来実施

今年度の成果と成果が出た要因

今年度得られた成果

- ・堆肥舎整備で、処理に困っていた牛糞の有効活用が実現。
- ・小規模ではあるが、生ゴミBOXを地域へ普及。
- ・肥育→加工→島内販売を一貫して確立。



成果を得られた要因

- ・先進事例への訪問と、ZOOM等を活用した細かなやり取り。
- ・一事業者が単体で取り組むのではなく、複数の事業者で取り組むことで、知識・コネクション・設備などを補い合い成果を出すことができた。



次年度の展望と必要な取組

■「西表地域循環協議会(仮)」の発足。

民間と自治体が一体となり、島の循環システムの構築を実現するために、新年度協議会を立ち上げる方向性が決まった。農業者に限らず、観光事業者や議員などのメンバーも加わり推進力を高める。



■ミニライスセンターの建設

協議会を中心に、ライスセンターの規模や建設場所の検討。水稻農家へのヒアリングや協議を重ね、ライスセンターの活用を推進する。

水稻農家 ←→ 飲食店・ホテル・学校給食との連携



■町民向けマンダラ図の作成

MITさんに製作依頼

・活動内容や方針が、どの目線から見てもわかりやすく、繋がっていることを理解してほしい。